令和５年度　秋田県立矢島高等学校
第２回学校運営協議会　議事録

【日時・場所】

令和５年１０月３日（火）

１３：１５～１３：５５　ワーキンググループ２、３協議

１４：１０～１５：２０　学校運営協議会（大会議室）

【出席者】

（１）学校運営協議会委員

大井　永吉　　【天寿酒造株式会社代表取締役社長】

庄司　嘉政　　【矢島高等学校元ＰＴＡ会長】

茂木　雅人　　【本海流坂之下番学講中】

三浦　秀人　　【矢島まちづくり協議会会長】

滝野由紀夫　　【前由利本荘市役所矢島総合支所長】

清野　太樹　　【鳥海中学校校長】

大庭　良久　　【矢島小学校校長】

武蔵　美佳　　【矢島高等学校校長】

（２）矢島高等学校［事務局］

淀谷　誠也　　【教頭】

丸山　　隆　　【事務長】

高橋　晃二　　【教諭（総務部主任・ＷＧ１委員長）】

佐藤　久男　　【教諭（教務部主任）・ＷＧ３委員長】

鎌田　　勉　　【教諭（生徒指導主事・ＷＧ２委員長）】

佐藤　俊治　　【教諭（進路指導部副主任）】

土田　伸也　　【教諭（商業科主任・ＹＢＰ担当・特別活動部副主任）】

その他教職員　佐々木みか子、月本晴子、猪股憲一、大石敏孝、
佐々木徹、今井由佳利、佐藤文明

【次　第】

開会（事務局：教頭）

１　学校運営協議会会長あいさつ

学校運営協議会は年３回開催という非常に少ない機会の中で、実行すること、その反省、次に繋いでいくことを話し合い、矢島高校の運営を充実させるよう知恵を出し合っている。是非、実りある会議にしていただきたい。

２　出席者紹介（教頭）

３　校長あいさつ（これまでの取組状況等について）

第１回学校運営協議会は、委員と事務局担当職員での会議だったが、本日はできるだけ全員で情報共有して活発な意見交換をしたく、可能な限り職員も出席している。

第１回学校運営協議会では、４月から６月までの学校の取組状況を説明したが、今回は７月以降の状況を説明したい。

（以降、ＹＢＰの全県、東北商業研究発表大会や鳥海山登山等について、資料により説明した。その他、３年生の進路状況、学校祭、修学旅行の予定等について説明した。）

４　協議（進行：大井会長）

（１）各ワーキング・グループからの報告

各ワーキング・グループ委員長から、第２回までの協議内容、状況等について説明した。

各委員より

［茂木委員］

どのＷＧも情報発信が主要な議題となっているようだ。その中で、以前は授業の一部門としてのＹＢＰの活動が、矢島高校の特色の一つとして学校全体で認知されるまでになっていると感じた。ＷＧで出てきた意見をＹＢＰの活動に取り入れ、矢島高校の魅力として外部に発信するのもよいのではないかと考える。

小中高連携活動に関しては、特に中学生に対して連携活動を行う際に、

地域の先輩として矢島高校の魅力を伝え、矢島高校への進学者を増やすことも意識付けとしてほしい。

［三浦委員］

ＷＧ３の鳥海ダムの学習に関して、予算の流れや施工業者等について調べるには、密着して実際の現場を見て、施工者の説明を聞くことも重要である。資材の流通や工事従事者の生活関連などの予算経費の仕組みを調べることもよいと考える。鳥海ダムに関しては、組合を作って地元に一部還元するような取組もある。また、道路など本体工事以外の経済効果も考えられる。実際の流れを説明してもらえる人に依頼するのもよい。生徒にはこのようなことも意識して学習してもらいたい。

［滝野委員］

ＷＧ２に参加して、学校の活動に生徒がしっかり取り組んでいると感じた。生徒数は減少しているが、指導はしっかりなされている。毎年、受験人数を見ると矢島高校の校風が伝わっていないのではないかと感じる。

ＹＢＰの活躍など、まずは矢島高校の取組状況を広く知ってもらうことが重要だと考えている。ＹＢＰが東北大会で賞をもらうまでの取組、活動などを広く紹介することもよいのではないかと考える。矢島中学校からの入学者が増えることがよいのはもちろんだが、由利本荘地域の子供たちに取組活動が伝わることで、よい方向に向かうのではないかと考える。

ＷＧ１、３に関しては、このまま進めていただければ、故郷に対する愛着を高め、地域に根付く者も増えるのではないかと考える。

［清野委員］

ＷＧ１に参加しているが、小中高連携のことが取り上げられている。来年度から小学校が移設され、ますます注目されることになると考えられる。

鳥海小中学校の連携については、現在、学校祭と運動会は小中合同で行っている。ようやくうまく動き始めたが、連携は課題も多い。

校舎が繋がっているから連携できるではなくて、連携することで教育効果が高まることを精査して取り入れるべきであると考える。来年度からすぐに小中高の連携がうまくいくとは限らないが、今後も協力していきたい。

［大庭委員］

ひまわりプロジェクトや駅前花壇植え、避難訓練等、連携して行っている活動やＷＧからの提案で行っている行事等に関して、生徒たちの生の感想や場合によっては評価を汲み上げて行うこともよいのではないか考えている。

いろいろな取組のよりどころとなる生徒たちの意見があれば、改善や新規の活動に繋がっていくのではないかと考える。高校、小中学校も含め子供あっての学校であり、生徒たちの意見は連携活動に生かせると考える。

［庄司委員］

ＷＧ１で協議している小中高の連携に関しては、７月に「矢島高校を応援する会」のフォーラムでもパネルディスカッションしたが、いろいろな課題があり難しい部分があるようだ。小中高の児童生徒、教職員、県の意見等を汲み上げる必要もあると考える。ひまわりプロジェクトや部活動連携などよい成果を上げている活動もある。小学校との連携に当たっては、最初は連携というより行事等に中高生が協力するという形で進めてもよいのではないかという意見もあった。今後の進め方について検討してもらいたい。

ＹＢＰの今後の活動に関して、学校運営協議会でも協力していきたいと考えるが、新たなテーマ、案等があれば伺いたい。また、矢島八朔まつりへの次年度以降の参加、協力について引き続き検討してもらいたい。

［武蔵校長］

ＹＢＰの活動に関して、これまで作製した秋田県版と山形県版のジオパークすごろくシートについては、今後も販売活動を継続していく予定である。今年度から取り組んでいる新たな活動内容については、担当職員から説明する。

［土田教諭］

ＹＢＰの活動に関して、現在、ＳＤＧｓの考え方なくしてはビジネス活動、事業等が成り立たなくなってきている。しかし、大企業では取り組みがなされているが、中小企業では取り組みが少ないという現状から、高校生の力でＳＤＧｓを活用したビジネスを創造できないかということを考えた。

由利沿岸、特に西目地域の沿岸で海洋ゴミが深刻な状況になっている。ほとんどが自分たちの住む陸地からのゴミである海洋ゴミの中のプラスチックを利用したアクセサリー作りを小学生に体験させ、ＳＤＧｓを学習させることと、そのビジネス化の可能性をテーマとして取り組んでいる。

今度の学校祭と矢島産業文化祭で、海洋ゴミプラスチックアクセサリー作りを実施し、ＳＤＧｓの普及とビジネス化について、テーマ研究を進めていく予定である。

［武蔵校長］

ジオーパークやＳＤＧｓに関しては、商業科以外の教科等でも、様々な角度から取り入れられる内容であるので、今後も検討していきたいと考えている。

［大井校長］

学校運営協議会は、学校側が何をやっていきたいのかを聞き、地元に密着したテーマの場合、それにふさわしい地域対応、人物、企業等をどんどん推奨することができる。学校のカリキュラムが基盤であるが、それに寄り添い、高めるなり、方向性をずらさないなりの手伝いをすることが一番重要だと考える。たとえば講演会講師など適切な人物を紹介できる場合もある。当初、少子化の中で学校をどう存続させるかという問題から始まった運営協議会であるが、ここ数年は、少ない生徒にたくさんの教師が寄り添い、きちんとした教育ができることをどう伝えるかを考えてきた。

小中高が一箇所に集まるため連携に関する話題が多く出たが、一緒にできることは当然限界がある。連携の可否だけでなく、児童から生徒へ年齢が上がれば、いわゆる人間力もあがっていく、人として成長するその違いを見せることも重要なことと考える。それも連携の効果、大切な部分と言える。一緒にいて違いを見せるということを考えてみてはどうか。

（２）その他　　特になし。

５　矢島ブランディングプロジェクトの秋田大会発表ビデオ上映

６　諸連絡

・今後の予定について

第３回学校運営協議会　令和６年２月２０日（火曜日）

閉会（事務局：教頭）

以　上